

平成 24 年度

財団法人いわき市教育文化事業団決算書

( 抜粋 )

自 平成 24 年 4 月 1 日

至 平成 25 年 3 月 31 日

財団法人いわき市教育文化事業団

# 目 次

	ページ
・ 事業報告書 .....	1
・ 決算報告書 .....	11

# 事業報告書

# 目 次

概 況	ページ
1 総括事項 -----	3
2 議決事項 -----	4
業 務	
1 文化財部門	
(1) 文化財発掘調査 -----	5
(2) 埋蔵文化財啓発活動 -----	5
2 施設部門	
(1) いわき市アンモナイトセンター -----	5
(2) いわき市考古資料館 -----	6
(3) いわき市立草野心平記念文学館及び草野心平生家 -----	6
(4) いわき市暮らしの伝承郷 -----	7
(5) いわき市生涯学習プラザ -----	8
(6) 福島県いわき海浜自然の家 -----	9
3 役員に関する事項 -----	9
4 職員に関する事項	
(1) 事務局 -----	10
(2) 施設 -----	10

## 概 況

### 1 総括事項

平成24年度の当財団の運営は、東日本大震災の復興などに伴う埋蔵文化財発掘調査事業量の増加、福島県いわき海浜自然の家の指定管理者受託など運営改善行動計画の具現により安定経営に向けた一定の成果が見られたことから、360万円ほどの黒字予算でのスタートとなりました。

一年間を通し、関係機関との連携強化、そして、役職員一丸となった事務の簡素化と経費の節減などの取り組みが行われた結果、最終的には約2千万円を超える黒字決算となりました。

文化財部門においては、県内市町村から新規の調査依頼もありましたが、いわき市の復興及び民間などの開発に遅滞がないよう市内の調査を優先し、市外地調査は継続事業である下郷町と矢祭町の2件にとどめた結果、最終的には当初計画の16事業から9件多い25事業を受託実施しました。治山事業として平成17年度から断続的に調査が行われている餓鬼堂横穴群からは、3基の木棺と金糸片が発見されるなど、今年も全国的にも貴重な発見が相次ぎました。報告書は市外の2冊を含め、あわせて8冊刊行しました。

施設部門においては、風評被害を払拭し、減少した利用者数を震災前の状況へ戻すとともに、教育・文化および社会教育施設として復興のために何ができるかを常に考えながら、施設の管理と運営にあたってまいりました。いわき市アンモナイトセンターでは、多くの体験者が訪れていた化石体験発掘が震災後中断されていましたが、一部制限はあるものの1月5日に再開しております。激減していた入館者も、市外から多くの参加者が訪れるなど徐々に増えてきております。このほか、震災後に受託した海浜自然の家を除く5施設では、利用者数が震災前の7～9割程度と徐々に戻ってきてはいますが、未だ回復にはいたっていない状況です。

出版事業は、新刊図書1冊と既刊出版物の販売を行いました。

普及活用事業は、当財団職員の有する専門性をアピールするとともに、専門的知識を有償提供し収益を図る目的で講座の講師などを行うもので、公民館を中心に昨年度より4講座9回多い112講座31回開催しました。

研修は、質の高い専門性とサービスの確保、接遇の向上、安全・安心な施設及び労働環境の確保を目的に、団独自の研修を開催するとともに関係機関の研修にも積極的に参加しました。

啓発広報事業として、餓鬼堂横穴群の現地説明会に協力するとともに、「文化財ニュースいわき」第68号・第69号を刊行しました。

公益法人制度改革に伴い、公益財団法人への移行申請に向けた準備事務を進めてまいりました。

## 2 議 決 事 項

理事会	議案番号	件 名	提出年月日	議決年月日
第1回	第1号	平成23年度財団法人いわき市教育文化事業団決算の認定について	平成24年5月24日	平成24年5月24日
第2回	第1号	新公益法人への移行に伴う最初の評議員選任方法(案)の承認について	平成24年7月24日	平成24年7月24日
第3回	第1号 第2号	最初の評議員選定委員会委員の承認を 求めることについて 最初の評議員候補者の承認を求め ることについて	平成24年12月20日	平成24年12月20日
第4回	第1号 第2号 第3号	公益財団法人移行認定のための「定款の 変更の案」の同意を求めることについて 公益財団法人いわき市教育文化事業団 理事等の報酬並びに費用に関する規程の 制定について 公益財団法人移行申請書の承認を求め ることについて	平成25年1月30日	平成25年1月30日
第5回	第1号 第2号	平成25年度財団法人いわき市教育文化 事業団事業計画について 平成25年財団法人いわき市教育文化事 業団収支予算について	平成25年3月25日	平成25年3月25日

# 業 務

## 1 文化財部門

### (1) 文化財発掘調査

平成24年度に受託した事業は25件となった。事業内訳は、いわき市内の本調査8件(遺物整理含む)、試掘調査9件、遺物整理報告書作成6件の23事業である。他市町村では、本調査1件(遺物整理及び報告書作成含む)、遺物整理報告書作成1件の2事業である。

本発掘調査等における主な成果として、3基の木製の棺が発見された餓鬼堂横穴群が特筆される。報告書は市内6冊、市外2冊の8冊を刊行した。

### (2) 埋蔵文化財啓発活動

実施月日	実施項目	内 容
平成24年9月19日(水) ~同 11月19日(月)	「平成23年度発掘調査速報展」	いわき市考古資料館と共催して平成23年度に発掘調査・試掘調査・報告書刊行した遺跡を写真パネルを中心に解説・展示した。「文化財ニュースいわき」第68号を発行し市民に配布した。入館者1,882名
平成24年10月20日(土)	平成23年度発掘調査速報展関連事業「遺跡報告会」	発掘調査担当職員による調査成果の説明を行った。参加者34名
平成24年9月30日(日)	餓鬼堂横穴群現地説明会	木棺3基、祭祀に使用した器の出土など新たな発見があった。 参加者182名 「文化財ニュースいわき」第69号を発行し参加者に配布

## 2 施設部門

### (1) いわき市アンモナイトセンター

平成24年度の入館者総数は、2,910名で昨年度比2,123名の増となった。東日本大震災の影響により中断していた体験発掘事業を、平成25年1月より再開したことで来館者が少しずつ増えている。

また、自然探訪教室の代替事業として「親子発掘教室」を室内(平成25年1月以降は屋外)で開催し、12回125名の参加を得ることができた。当センターの主要事業である体験発掘を中止せざるを得ない状況にあって、室内ではあるが露頭と同じ地層の岩石ブロックを使った発掘体験ができたことで、子どもたちの古生物への興味・関心を喚起し、理科離れ防止の一助となった。

教育機関・団体を対象とした特別体験発掘については、平成25年1月以降受入を再開したものの利用はなかった。原因として、再開時期が年度末となったことで学校の年間計画に組み入れられなかったこと、学校サイドで放射線量への不安が完全に払拭できていないこと等が考えられる。

小中学校の夏・冬休み期間に合わせた各企画展は、夏休み企画展「私の化石 宝もの」が628名で

昨年度比502名の増、冬休み企画展「化石発掘を学ぶ」が201名で昨年度比25名の増であった。

公開シンポジウム（講演会）は、平成16年度から当センターが立地する双葉層群（化石）への理解を目的として実施してきた。さらに同20年度からは、久之浜地区の「小中学校連携推進事業」として久之浜中学校を会場に、地学や化石に関する教育課程がある小学6年生と中学1年生が出席して開催されている。平成24年度は、講演者に佐藤たまき氏（東京学芸大学准教授、フタバスズキリュウ学名：フタバサウルス・スズキイの命名者）を迎え、学名命名にいたる研究の概要と子どもの頃の夢を大切にしようという内容の講演を実施した。

## （2）いわき市考古資料館

平成24年度のいわき市考古資料館は、利用者総数11,649名と前年度比113名の減であった。内訳は、入館者が10,788名で前年度比368名の増となったが、出前講座など入館者以外の利用者が22件861名で前年度比3件481名の減となった。

企画展は、企画展3回、ミニ企画展1回の計4回開催した。3企画展で8,432名と前年比1,436名の増であった。第1回企画展での個人や学校収蔵埴輪の借用展示、第2回企画展での調査が終了して間もない餓鬼堂横穴群出土遺物の展示など、資料の収集・調査・研究・公開や出土品のいち早い市民への公開など、それぞれの企画展の開催目的に添って企画展を行うことができた。

講座・講演会は、企画展に合わせた講演会や展示解説会などを含め、6講座8回開催した。震災後、国史跡中田横穴の一般公開が中断されており、当館が講座として開催している「中田横穴青空講座」も、昨年度に引き続き中止となった。

体験学習会は、4回21日間開催し、会期中1,992名が来館し、延べ816名が勾玉づくりやハニワづくりなどを体験した。「狩りに挑戦」の弓矢体験が定着し、参加者が多くなってきている。また、夏休み最後の土・日曜日に開催した滋賀キッズミュージアム With いわきは、2日間で487名と入館者数は前年度の931名に比べて半減した。

団体入館者は、60件2,017名で前年度比22件719名の増となり、件数・員数ともに震災前には及ばないものの、9割近い回復を見ることができた。

資料の調査や貸出、問合せへの対応も当館の重要な業務のひとつであり、横浜市立博物館、滋賀県ミホ・ミュージアム、愛知県高浜市やきものとかかわら美術館への資料の貸出など93件に対応した。また、8月には、4名の学生を対象とした学芸員実習を実施した。

緊急雇用創出基金事業として、いわき市石炭化石館収蔵化石資料の整理登録作業を実施した。

建物や備品の経年変化の劣化などが原因と考えられる自動ドア・トイレ・蛍光灯安定器などの故障箇所及び館北壁東側の雨漏り箇所などの修理・修繕を行い、施設の維持・管理に努めた。

このほか、各種研修へ職員を参加させ、接遇の向上などに努めた。

ホームページは、事業案内及び経過報告などを随時更新掲載し、内容の充実に努めた。

## （3）いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

いわき市立草野心平記念文学館



年間入館者は14,695名で、昨年比2,659名の増となり、平成24年5月13日には、平成10年7月19日の開館以来、入館者延45万人を達成した。年間開館日数は312日間だった。

平成24年度は、春、夏、秋と3つの企画展を開催した。

春の企画展「草野心平の愛した動物たち」は、心平の動物を主題にした作品を所蔵資料で紹介し、あわせて実生活での心平と動物とのかかわりにふれた。会期中、動物たちとふれあえる催しを開催し、多数の家族連れが参加した。

夏の企画展「若山牧水展」は、いわき市と延岡市の兄弟都市締結15周年を記念し開催した。延岡市内藤記念館の協力を得たほか、牧水の生地日向市および没地沼津市の記念館からも資料を借用して充実した展示内容となった。あわせて、牧水と福島県との縁、延岡市といわき市との縁を紹介した。会期中、若山牧水記念文学館（日向市）館長で歌人の伊藤一彦氏を講師に迎え、記念講演会を開催した。

秋の企画展「坂本遼展」では、農と家族を主題に詩を作り、後半生は子どもの文章指導に情熱を注いだ坂本遼の生涯と作品を紹介し、あわせて、草野心平やいわきの詩人たちとの交友にもふれた。会期中、遼と心平、宮沢賢治の若き日の交友をもとにした朗読祭と演奏会を開催した。

スポット展示は、会期を約2か月間として開催した。没後100年にあわせて「文学と歴史 関寛斎」を開催し、勿来関文学歴史館（「いわきの幕末」を開催）との連携をはかった。また、「草野心平夏の作品」「草野心平 冬の作品」を開催し、新たな視点で心平の作品を紹介した。

普及活動では、夜間開館時間をはじめ、週末にもコンサートなどを開催し、文学や芸術にふれる場を提供した。また、復興支援コンサートなどを共催し、市民と支援者の交流の場となった。おはなし会（絵本読み聞かせ）は子どもの午睡時間を避けて開催したほか、ギャラリートーク、詩作講座などを開催し、文学により親しめる、創作活動の場にふさわしい事業を展開した。小川地区の自然を探訪する文学散歩や、サマーナイトコンサート開催時に小川地区の子どもたちが描いた竹灯ろうで屋外をライトアップするなど、文学館が建つ小川町住民との連携事業も実施した。

#### いわき市草野心平生家

平成24年度の入館者数は2,097名で、昨年比766名の増であった。年間開館日数は312日間だった。

例年開催している「心平誕生日の市民朗読会」には、小川小学校・小川中学校の児童・生徒が参加し、ふるさとの詩人を顕彰した。生家ボランティアの会が講師となったワークショップ「カエルの折り紙をつくろう」は、生家ボランティアの会と市民との交流の場ともなった。

#### (4) いわき市暮らしの伝承郷

平成24年度の入園者数は、25,858名で昨年度より4,897名の増となった。増加の要因は、第3回「伝承郷収蔵品展 - 娯楽の王様映画ポスター展」と榎葉町和布細工教室「ほのぼの」展が好評だったことにある。

伝承郷の中心的な事業である景観の復元・伝承・管理作業は、平成11年に開園して以来、単なる園内管理に止まらず、昔の暮らしぶりそのものの景観復元と伝承をコンセプトに実施してきたところである。今年度も畑作・里山作り・庭木の手入れ・家屋の日常的な清掃・囲炉裏火焚き・薪作り

など幅広い項目にわたり実施してきた。その方法や扱う道具についても、展示の一環として位置づけて極力昔の方法・道具を取り入れながら行った。

企画展は、第1回「磐城平城下の町」、第2回「高橋孝太郎作品展」、第3回「伝承郷収蔵品展 - 娯楽の王様映画ポスター展」、第4回「身近にある文化財展(四倉史学館所蔵の資料)」の4回開催した。これら企画展関連事業として、それぞれに展示解説会など実施した。

体験学習は、「民話の語り」や「百人一首」など、予約なしで気軽に参加できるものや、「樹皮の花かご作り」や「押し花カレンダー」・「正月飾り作り」など、技術を要するもの、そして昔行われていた年中行事等など、子供から大人までの幅広い年齢層を対象として企画し、通算23回を実施した。さらに学校や子供会などの要望による、「昔遊び」や「昔掃除」・「餅つき」などの臨時体験学習も随時実施して好評を得た。

伝承郷講座は、民俗学講座「災害に向き合う民俗学」5回の講話を実施した。

伝承郷行事では、「盆棚飾り」・「こと八日」・「農立て」・「正月飾り」など月々の21の伝統行事を、古式にのっとり作成・展示した。また、「じゃんがら念仏踊り」や「獅子舞」・「会津万歳」などの伝統芸能の実演を行い、伝統行事の再現と実演による継承と伝承を図った。これらの行事では、来演者のリピートが狙いで、定例化を図っている。

小学生を対象とした「キッズ民話語り部教室」は、子供語り部による第19期を迎えた。

市民の文化活動の場として定着した企画展示室の貸出は、通算10回で昨年度より3回増えた。その他、ガイド等のボランティア研修会、篠笛や琴・ハーモニカによる演奏会、民俗・歴史に関するレファレンス事業や民具の鑑定・収集なども実施した。また、前年度から始まった緊急雇用創出事業として、農村風景復元・伝承事業委託を受託実施した。

#### (5) いわき市生涯学習プラザ

平成24年度は東日本大震災後の復旧工事が完了し、全面開館することができた。市民への周知をはかったものの、利用者数は、震災前の一昨年度より9,250人少ない1109,004人であった。また、震災の影響で解散あるいは活動拠点を他に移した団体及びサークル等があることで、社会教育関係団体の申請件数も、一昨年度より448件少ない11,765件の件数に留まった。

主催講座は、震災前の状況に復して24講座を実施した。子育て支援ボランティアによる「紙しばい・絵本の読み聞かせ」・「子どもと遊ぼう」やITボランティアリーダー企画講座等のボランティア活用事業も毎月開催するなど、若年層から高齢者まで幅広い年齢層に対応した講座を提供することができた。また、市内の公民館(大浦・神谷・平窪公民館)との連携で「いわき再発見講座」を事業団の普及活用事業として引き続き開催した。加えて、サークルが一般市民を対象として企画したサークル企画講座、特に本年度初めて開催した「香道体験」・「朗読はじめの一步」は機会の少ない貴重な体験企画として好評を博した。

福島県緊急雇用創出事業「いわきまなびあいバンク普及活用業務」では、登録市民講師を活用し、4講座を実施した。また、研修会を開催することで、登録市民講師間の交流を図ることができた。

いわきヒューマンカレッジ(市民大学)は昨年度より20名多い1442名の入学生を迎えて4学部(続

ヘルスサイエンス学部・地域経済学部・環境再生学部・いわき学部)を開催した。また、平成23年度は中止を余儀なくされた8回目となる生涯学習フェスティバルを開催し、地元地域を含め全市的な交流の場を創出した。

こうした事業の展開にあたっては、ホームページや広報いわきのほかに、講座ごとの案内チラシをとおして情報の発信や提供を行い、利用者懇談会やアンケート調査でモニタリングを重ね、市民目線に立った効率的な管理運営に努めた。

### (6) 福島県いわき海浜自然の家

平成24年度の利用状況は、302団体延べ30,134人を数え、震災前の平成22年度(546団体66,611人)に比して45%ほどでありました。社会教育団体の利用は増えましたが、学校教育団体の利用は、56団体延べ2,697人(平成22年度は342団体、延べ50,576人)と平成22年度に比して人数で5%と激減しました。

野営場に代わる野外活動エリアとして、つどいの広場の全面芝張りや、いこいの広場の芝張替工事を行い、安心して利用できる環境を整備しました。また、トリムランドの除染について協議を進め、平成25年度着工となりました。

春・秋のオープンデー、3月のフリーデーなど、施設の一般開放によって当所の運営状況等を広く県民に周知するとともに、さまざまな企画事業をとおして理解を深めることができました。さらに、当事業団が指定管理していることを生かし、公民館との連携事業や出前講座などを実施して利用促進を図りました。

各種事業においては広報チラシ・ポスターの配付をはじめ、ホームページによる事業案内及び報告等を随時掲載し、広く県民への周知に努めました。

また、内外の各種研修や報告会のほか、接遇研修によって職員の資質向上に努め、県民に愛され親しまれる施設づくりに努めました。

## 3 役員に関する事項

理事9名、監事2名

区分	年月日	役職名・氏名	備考
就任	平成24年4月1日	理事長 鈴木英司	(いわき市副市長)
		理事 鈴木正一	(いわき市総務部長)
退任	平成25年3月31日	理事 山田満	(常務理事兼事務局長)
		理事 鈴木正一	(いわき市総務部長)
		監事 百武和宏	(いわき市財政部長)

#### 4 職員に関する事項

平成25年3月31日現在

##### (1) 事務局

(括弧内数字：兼務職員数、単位：名)

区分	事務局長	事務局次長 専門研究員	係長 主任研究員	副主任研究員	事務主任 研究員	主事	嘱託職員	日々雇 用職員	計
事務局	1(1)	2(1)	-	-	1	-	-	-	4(2)
企画管理係	-	-	1	-	-	-	1	1	3
調査第一係	-	1	1	-	1	-	5	-	8
調査第二係	-	-	2	-	-	-	-	13	15
計	1(1)	3(1)	4	-	2	-	6	14	30(2)

##### (2) 施設

(括弧内数字：兼務職員数、単位：名)

区分	館長 副館長	次長 主任主査 専門学芸員 専門指導員	係長 主任研究員 主任学芸員	主査 副主任研究員 副主任学芸員	事務主任	主事 学芸員 指導員	嘱託職員	日々雇 用職員	計
アンモナイト センター	(1)	1	-	-	-	-	1	2	4(1)
考古資料館	(1)	-	(2)	(1)	-	-	-	4	4(4)
文学館	2	-	-	2	-	-	-	3	7
伝承郷	1	1	-	1	-	-	1	6	10
生涯学習 プラザ	1	-	1	1	-	1	1	7	12
いわき海浜 自然の家	1	2	-	-	-	2	4	5	14
計	5(2)	4	1(2)	4(1)	-	3	7	27	51(5)

合計	6(3)	7(1)	5(2)	4(1)	2	3	13	41	81(7)
----	------	------	------	------	---	---	----	----	-------

# 決 算 報 告 書

# 目 次

		ページ
1 貸借対照表	-----	1 3
2 正味財産増減計算書	-----	1 4
3 財産目録	-----	1 5

# 貸借対照表

平成25年3月31日現在

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
資産の部			
1 流動資産			
現金預金	177,239,761	141,247,721	35,992,040
未収金	25,813,310	21,764,563	4,048,747
前払金	219,279	43,207	176,072
未経過通信運搬費	8,020	2,020	6,000
未経過租税公課	2,800	21,600	18,800
製品	49,762	70,646	20,884
流動資産合計	203,332,932	163,149,757	40,183,175
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) その他の固定資産			0
器具・備品	1,186,899	1,386,092	199,193
電話加入権	449,904	449,904	0
投資有価証券	10,033,780	35,100	9,998,680
その他固定資産合計	11,670,583	1,871,096	9,799,487
固定資産合計	21,670,583	11,871,096	9,799,487
資産合計	225,003,515	175,020,853	49,982,662
負債の部			0
1 流動負債			0
未払金	88,449,472	67,836,336	20,613,136
未払消費税	7,647,500	7,456,900	190,600
未払法人税等	11,000,000	3,000,000	8,000,000
預り金	3,657,944	2,993,062	664,882
流動負債合計	110,754,916	81,286,298	29,468,618
2 固定負債			0
固定負債合計	0	0	0
負債合計	110,754,916	81,286,298	29,468,618
正味財産の部			0
1 指定正味財産			0
受取出捐金	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	0
2 一般正味財産			0
一般正味財産合計	104,248,599	83,734,555	20,514,044
正味財産合計	114,248,599	93,734,555	20,514,044
負債及び正味財産合計	225,003,515	175,020,853	49,982,662

# 正味財産増減計算書総括表

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	32,200	68,831	36,631
事業収益	627,751,950	463,140,790	164,611,160
a 文化財調査事業収益	230,799,600	160,497,750	70,301,850
b 施設管理運営事業収益	396,723,390	301,743,900	94,979,490
c 出版事業収益	46,460	781,140	734,680
d 普及活用事業収益	182,500	118,000	64,500
受取寄付金	0	0	0
雑収益	5,857,443	4,431,363	1,426,080
経常収益計 (ア)	633,641,593	467,640,984	166,000,609
(2) 経常費用			
事業費	577,577,472	428,293,041	149,284,431
a 文化財調査事業費	199,508,093	145,162,341	54,345,752
b 施設管理運営事業費	378,006,783	282,686,762	95,320,021
c 出版事業費	45,196	429,938	384,742
d 普及活用事業費	17,400	14,000	3,400
管理費	35,550,077	21,663,724	13,886,353
a 一般管理費	34,829,587	20,887,254	13,942,333
b 研修費	619,690	776,470	156,780
c 啓発広報費	100,800	0	100,800
経常費用計 (イ)	613,127,549	449,956,765	163,170,784
当期経常増減額 (ア-イ)	20,514,044	17,684,219	2,829,825
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計 (I)	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計 (オ)	0	0	0
当期経常外増減額 (I-オ=カ)	0	0	0
当期一般正味財産増減額 (キ)	20,514,044	17,684,219	2,829,825
一般正味財産期首残高 (ク)	83,734,555	66,050,336	17,684,219
一般正味財産期末残高	104,248,599	83,734,555	20,514,044
指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	32,200	84,631	52,431
一般正味財産への振替 (コ)	32,200	84,631	52,431
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高 (シ)	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産期末残高	10,000,000	10,000,000	0
正味財産期末残高	114,248,599	93,734,555	20,514,044



